

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム秋桜
(ユニット名)	2番地
所在地 (県・市町村名)	長崎県長崎市
記入者名 (管理者)	間 亜希子
記入日	平成 20 年 8 月 16 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域密着型サービスの役割を果たせるように努力したい。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の方々との交流を図れるようなイベントを企画したり、気軽に立ち寄ってもらえるような環境づくりが大切。
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	施設全体がこども110番の家に登録し、11月には施設主体で行事を計画している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所自体は配食サービスや高齢者地域支援事業には取り組んでいる為、応援等をおこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、前回外部評価結果にて現在のケアを見直し、改善点を話し合い、取り組むようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において活動報告をしたり、外部評価の結果報告も行っている。他職員には議事録を回覧して把握を図るようにしている。	○	他職員も交代で運営推進会議に参加し、直接運営推進委員の方々の意見を聞く機会を設けている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ運営推進会議以外では市町村との交流の機会は設けていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について深く学ぶ機会がなく職員も理解が少ないと思われる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で高齢者虐待防止法についての勉強会を実施し、職員も参加した。	○	職員間で日々の業務の中や申し送り、話し合いの場で虐待の危険性がないか確認し合いながら、意識していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約内容や入院時の負担額の説明は行っている。事業所の取り組みや考え方を説明し利用者の状態変化に伴い解約に至る場合も十分話し合いを行うよう説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の要望を聞き反映できるような取り組みを心がけている。介護相談員の受け入れも行っている。</p>	<p>○</p> <p>入居者によって表現方法が違うため、個別に考慮しながら把握を行っていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族には面会時に現況報告や健康状態を報告している。金銭面についても基本は管理しない様になっているが、預かっている場合は出納帳を確認していただいている。職員の異動の際もその都度報告している。</p>	<p>○</p> <p>定期的に日々の活動、行事、外出活動での写真を掲示したりしていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族とのコミュニケーションを大切にし意見等を話しやすい様に関係作りを行っているが全てのご家族に伝わっているか判断できない。施設全体での意見箱を設置している。昨年家族懇談会を実施した。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日短時間のミーティングを行い意見や要望を話す機会を設けている。また勤務時間内でも話すことを心掛け、意見、提案を示すようにしている。月に1回話し合いの場を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>最小限の人数で勤務している。急病などで休む場合は柔軟に対応しているが、人員が確保できていない現状である。</p>	<p>○</p> <p>人員確保した上で、状況に合わせて勤務調整を行って行きたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動については法人全体で決定する為やむを得ない場合もある。出来る限りなじみの顔でのケアの継続に努めている。</p>	<p>○</p> <p>異動で交代する際の職員の引継ぎを十分に図りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員に対して外部の研修や勉強会へ参加する機会はつくられているが、参加する人材が偏っている。	○ 職員自体の意識。知識向上の為に研修会や勉強会に参加する機会を設けてもらいたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市内のグループホーム連絡協議会に所属し研修会へも参加している。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	業務上の悩みは共有し休憩場所と時間は確保しているが、職員自身のストレスへの具体的な対策は行っていない。介護の重度化に対する介護技術や設備に不安がある。	○ 職員の個性を把握した上で、ストレスへの解決策を検討しなければならないと思われる。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は人事考課等を実施し、管理者や職員の勤務状況を把握はしているが、人員・人材不足が日常化しており、職員が向上心を持つ環境づくりには至っていない。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家庭から入居する場合、環境が変化するため入居してからの負担を、最小限にできるように本人からの要望を聞いたりすることはしているが、本人が利用することを認識できないまま入居し混乱が予想される時の努力が必要である。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談時に家族の意向や悩みを受け止める努力を行い、対象者にも実際施設を見てもらった上で利用できるように努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居の相談時に本人の状態やご家族の状 態を理解し、すぐに対応が出来なくてもニーズにそったサー ビス利用ができる様に助言は行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	ご家族からの相談を受け本人に実際に来てもらい、場の雰 囲気に馴染めるようにしている。また来れないときは訪問し本 人の生活を把握できるようにしている。	○	併設のショートステイ利用者であれば日中の短時間を一緒 に過ごしていただく事もできる。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に過ごす事で、入居者の個性、嗜好を把握し 入居者から安心してもらえる関係性を作っている。干し柿作り の際には上手にできる方法を教えて頂いたこともある。	○	本人のできることはできるだけ自力でもらえるように支 援していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	家族にも日々の生活状況や身体状況を報告している。面会 時に他の入居者、職員とご家族一緒に過ごすこともある。ま た行事や外出への参加も呼びかけているが、ご家族が参加 する事があまりない。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	本人の要望などをご家族へ話したり、短時間の外出や外泊 などへの働きかけも行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	ご家族や友人の方の面会は随時受け入れ、ご家族が面会 できない時に、家族の声が聞きたいとの要望がある際は電話を かけたりなどの支援は行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	入居者同士の関係性を把握し、職員が情報を共有した上 で感情の変化、体調の変化にも対応するように努めている。他 者との関わりが困難な場合は個別にて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p> <p>現時点で利用を終了された方がいないので実施していない。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p> <p>本人との関わりの中で本人からの希望を把握するようにしているが、把握が困難な方にはご家族からの意向を尋ねたりしながら、出来る限り対応するよう努力している。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p> <p>本人からの話やご家族からの情報を収集し把握に努めているが、馴染みの暮らし方の提供は限られたものとなっている。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p> <p>一人一人のペースが異なる為、本人と関わり、申し送り等で把握に努め、個別に関わりを持たなければならない時は、対応を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p> <p>本人や家族からは日頃の関わりの中で意見や要望を聞いた上でケアプランに反映するようにしている。ケアプラン作成時にも職員間でケース会議を開き、担当者以外の職員からも意見を提案している。ご家族においては、現状維持を希望される事が多い。</p>	○	利用者本位のケアプランについて理解を深めて行きたい。
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p> <p>本人の状況が変化(入院等で現状変化)した際はケアプランの見直しを行い本人の状況に合わせた計画を作成するようにしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に本人の状況、話した言葉等を記録したり、バイタル測定値を記録した管理表もあり、職員間で共有している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診等は家人が付添えない場合は職員が同行したりしている。	○	その都度本人や家人の状況に合わせて柔軟な対応をしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向に応じての支援はしていない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでの生活が困難と予想される場合は、ご家族に本人の状態に即した他サービスの内容を説明している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの直接的な関わりは少ない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続されたりご家族の希望で施設の協力医を受診されることがある。専門医の受診が必要な場合はその旨ご家族に連絡した上で受診を行なう様になっている。	○	契約時に受診の同行は原則ご家族にして頂くように説明しており同行が難しい場合は職員が同行するようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個人のかかりつけ医に本人の状況を報告するようにしているが、認知症の専門医が身近にいないことを感じる。	○	認知症に詳しい医師との関係性を築いていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職がいないため健康管理については職員が行っているのが現状で、他部署の看護師に相談したり、またはかかりつけ医の看護師へ連絡を取ったりすることもあるが直接受診することが多い。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時点から本人の支援方法などの情報交換を病院と行い、こまめに病院を訪ねて本人の状態の確認を行なう様に行っている。確認後はご家族に連絡を取り情報交換を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する方針を定め、現段階では終末期のケアができる体制ではないことをご家族へ契約時に説明を行っている。現在は医師を含めたところの話し合いはできていないのが現状である。	○	重度化が予想される場合に、どの時点で本人の状態を見極めるかご家族と共に考えていけるようにしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所が対応できる範囲を超える場合は入居者の状況に合わせたケアができる様にする事を家族には契約時に伝えてはいるが、実際には見極める段階が明確になっておらず、検討や準備の必要性が感じられる。	○	重度化した場合でもグループホームでの生活を家族が希望される場合に、どこまで対応できるのか、本人の状態と合わせて十分な説明を日頃より行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現時点では他事業所への住み替えはない。	○	他事業所に移られる際は支援方法、ケアプラン等の情報提供を行い可能ならば職員が訪問するなどの対応をおこないたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人に関わることについては配慮した支援を心掛けているが、時折プライバシーを損ねるような声掛けを行ってしまうことがある。排泄等はさりげなく介助している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意向、希望あるときは希望を受け入れたり決定できない場合はいくつかの提案をしたり出来るだけ自己決定できるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあり、入居者のペースに合わせる様に心掛けているが、職員の人員配置にてやむを得ない場合がある。	○ 入居者個人がどのような生活をしたいのかを考える必要がある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみには職員が気がけており、声掛けをしながらその方らしいおしゃれができるように支援している。理美容については家人にお願いしたり、ホーム近隣の店に連れて行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の献立を考えたり、季節の食材を取り入れたりしている。入居者の状態に合わせて、盛り付けをしたり、配膳の準備をしたり職員と一緒にしている。スイカを提供した際は皮の部分が漬物にできるといったアドバイスを頂いた。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ時など甘いものが苦手な方は代替品を出したり、入居者の咀嚼の違いもある為その方に合ったものを提供しているが、必ずしも全てが入居者に合わせているとは言えない。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、排泄パターンの把握に努めて、トイレでの排泄に心掛けている。自立している方でも声掛けと把握を心がけている。	○	排泄の失敗がない様に早めにトイレ誘導をしたり、職員間でも情報の共有を図っていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は人員配置の時間帯にて、入浴時間を決めており、一人一人の希望やタイミングに合わせた支援ができていない。	○	その日に入浴希望を募って入浴の支援をおこなう事を心掛けていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して休んで頂けるように、空調管理をしたり、静かな環境づくりに配慮している。また生活習慣に合わせて休息を促している。	○	日中は活動して頂き、夜間ゆっくり休んでもらうよう支援していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや、食器洗いなど一人一人の得意なことや出来ることをお願いし、して頂いた際は感謝を伝えるようにしている。	○	季節感を味わえるような支援を心掛けたいと思っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家人より本人のお金として金庫に預かっている方は、外出時好きな物を購入する際など自分で払って頂く様支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買物や散歩は行っているも限られている。車椅子を使用する方でも体調が良ければ外出するなどの工夫は行っているが現状は希望に沿った外出ができていない。	○	実際は入居者より希望が得られない時もあるので、普段から何らかの形で外出ができるように工夫していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人からの要望を基本に職員も予め計画を立てている。場合によってはご家族と一緒に外出への協力をすることもある。	○	ご家族も一緒に外出できる日程をもっと調整できればと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状を出すために、直接書いてもらったり、名前の記名をしてもらったりなどの支援は行っている。電話も本人が希望すればかける様援助し、ご家族からかかってくる際も取り次いだりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に設けておらず、訪問された際は本人の居室やリビングの一角で過ごせるよう空間作りを心掛けている。職員も一緒に会話に参加するなど、気軽に話せるような雰囲気作りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束を行わない方針を徹底し、禁止事項を行っていないかを再確認している。	○	本人の生活しやすい環境づくりと職員が介護しやすい環境づくりと、意味を間違えないようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの元生活されている為現在のところ鍵をかけることはない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者の把握できる場所で取り組んでいる。夜間も巡回や入居者が起きられた時に対応できるように行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等は入居者があまり立ち入らない場所に保管するようにしている。包丁などは台所に保管しているが鍵をかけることはしていない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の危険性が予測される方については未然の防止策を職員で検討したり事故発生の場合は報告書を作成し今後の対応策を検討している。大小に関わらず事故等が発生したときは事故報告書を作成し職員間で周知している。	○	誤薬がない様にマニュアルを作成し、職員は周知し、服薬時は数回確認するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命についての研修には参加しているがすべての職員が周知しているとは限らない。	○	日頃から救急時にどのような対応をするかの訓練等が必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設全体での避難訓練は定期的実施している。年1回は消防署の協力も得て訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族とは日常的な会話の中で、情報提供などで本人の状態を理解して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間で入居者の体調の変化や異変などの早期発見を心掛けており、チェック表にその旨記載したり情報の共有を行っている。体調不良で状態が変化した時は、かかりつけ医に相談するなどの対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に服薬している処方せんを綴じている。服薬介助マニュアルを作成しており、語彙がないように努めている。	○	職員全員が薬の内容や、副作用を理解できるように、処方の変更した時はその都度周知していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて間隔を把握し自覚できる入居者には配慮しながら排泄の有無を確認している。朝食時に牛乳やおやつにバナナを提供したりしている。また必要時は医師の処方元を下剤を使用することあり。	○	おやつの前に入居者全員に対して、体操を行ってもらいながら少しでも身体を動かして頂いている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者に食後の歯磨きの声掛けを行い自分で行える方は見守りのみで困難な方は介助を行って清潔を保つように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを管理している訳ではないが、野菜、肉、魚を偏りがないように献立を立てたり、食事や水分の摂取のチェック表に記録し摂取状況を把握している。水分補給は時間を決めて提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員、入居者の手洗い、うがいの励行は行っている。感染症については情報収集は行い、入居者、家族に同意を得て職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。	○	感染症について知識を深めるため定期的に確認をしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、流し台は毎回消毒、除菌を行っている。食材も賞味(消費)期限を把握し管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの玄関には、それぞれ花を置いたり写真を飾ったりして、ご家族や来訪者が安心して出入りが出来るように配慮を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節柄のものを飾ったり、入居者と一緒に作成した物を置いたり入居者が過ごす空間には台所の調理の匂いがするなど生活感がわかるように工夫している。	○	入居者にとって、居心地の良い空間になっているが、もう少し新たな工夫をしていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーに入居者自ら定位置を決めており、隣同士で話したりして過ごされている。その他に自分の座布団を持ってきて過ごしたりしている。またリビングより離れた場所にもソファーを置いたりして一人になれるスペースを作っている。	○	自分の定位置に他の人が座っていると、いい思いをしないこともある為、少しずつ配置を変えて行く等の工夫をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡台、クローゼットは備えつけてあるが、それ以外の物は本人とご家族と相談して自宅で愛用していた家具、持ち物等を可能な限りもち込んでもらい設置している。仏壇を持って来ている人もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調は整備してある為調整は入居者の状況を見ながら行っている。朝から必ず窓を開け換気をおこなっており、その他でも必要に応じて行っているが、入居者の過ごしやすい温度設定にならない事がある。	○	各居室の換気をもっと気がけるようにしたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が少なく、バリアフリーの作りになっており、身体機能に応じて生活はされていると思われるが、浴室に手すりが少ないと思われる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には手作りの表札を掲示していたり、トイレのドアにもわかりやすく掲示している。常に職員が配慮しながら声掛けにて対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周は散歩道になっていたりベンチを置いている。ベランダは個別であったり、共有のベランダに花を植えているが、奥まった所である為入居者が十分には活用できていない。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・季節感を感じることができるような外出等を取り入れている。
- ・運営推進会議を通して、地域の中での交流の場が少しずつ増えてきている。(保育園おゆうぎ会招待、小学生との交流、地域主催の行事参加等)
- ・入居者それぞれの個性を尊重しながら、入居者それぞれの状態に合わせて対応している。